

閑談中国

Vol.7

ジャーイオウ 沖縄の高校生、加油!ガンバレ!



愛媛女子短期大学
国際ビジネスコミュニケーションコース 教員

謝 芳 (しゃ・かおる)

日本の多くの高等学校で中国語教育がおこなわれています。昨年12月に行われた全国高校生中国語スピーチコンテストに教え子の学生と一緒に参加しました。その時の学生たちのスピーチの様子をご紹介します。

●レベルの高いスピーチコンテスト

全国で中国語教育を実施する高校の数は、1986年には46校だったが、2009年には831校となっている。なかでも沖縄県は中国語の開設率が最も高く、県立高校約3校に1校が中国語を開設している。

私は、沖縄県独自のFLT (外国人外国語指導助手) として採用され、去年度まで浦添商業高校で中国語を教えていた。

2010年12月11日に京都外国語大学で「第14回全国高校生中国語スピーチコンテスト」で開催された。北は岩手県から、南は沖縄県石垣島まで、全国28校総勢44名の生徒がエントリーし、私も当時の教え子2名と大会に参加した。

私が全国大会を通じて、感じた事が二つある。

一つ目はその全国大会のレベルの高さ、表現力も豊かさである。声の強弱、感情移入、身振り手振り、様々な工夫が見られた。岩手県から夜行電車から来たという高校2年生のA君は、正確な発音、流暢なリズム感、さらに表情や仕草までネイティブのようだった。残念ながら入賞は逃したが、とても素晴らしいスピーチだった。

二つ目は指導する先生によって、生徒達は全く異なるパフォーマンスを見せるということだ。面白いことに44名の発表を聴くうちに、段々と指導した先生が日本人か中国人か、中国の北出身か南出身やまで分かってしまう。さらには、発表のスピードや表現の仕方で先生の個性や人柄まで見えてくるような気がするのだ。男子生徒が、可愛い声や表情で発表していたのを見て、指導教員が女性である事を感じとった時は思わず微笑んだ。

生徒たちは素直で、先生の教えられた通りに習得

していく。一語学講師としての責任の重大さを実感できた。

●高い志を持つ沖縄の学生たち

新聞などメディアを通してご存じの方も多いと思うが、浦添商業高校の2名は、見事に中級部門で全国1位と2位に輝いた。

理代さんは、組踊の舞台で準主役を務めるだけあって、表現力の豊かさがスピーチにも現れている。声に感情をこめ、瞳を輝かせながら抜群な表現力で会場全体を魅了した。大会までの3か月間、練習での厳しい発音チェックにもめげず、いつも笑顔で根気よくついてきてくれた。その成果が実ったのだ。最初は、苦手な発音を直すのに一週間もかかったが、2か月も経つと、ほんの少し指摘するだけで、完璧にできるようになった。

夏姫さんは生徒会長を務め、校外で大東太鼓やエイサー等で地元の観光PRに貢献するなど、学校内外において大いに活躍している生徒だ。ひとつひとつの言葉に魂を込め、堂々と発表し、中級部門で見事全国2位に選ばれた。彼女は、「大学でも、中国語や観光を学び、将来、南大東島をアピールできるようになりたい。女性社長になって、沖縄の観光産業に貢献したい。中国と沖縄の懸け橋になりたい」と熱く抱負を語った。

沖縄でも、彼女たちのように卒業後も、大学や専門学校で中国語を学び続ける生徒が増えてきている。高校卒業後、すぐに中国の大学へ留学する生徒もいる。沖縄は歴史的にも中国とゆかりのある地で、様々な国との交流の中で培われた歴史を持つ。沖縄の高校生が、近い将来、グローバル社会で活躍するのが楽しみだ。沖縄の高校生、^{ジャーイオウ}加油!ガンバレ!